

2012 年度統計力学 II 宿題 11 (6 月 28 日出題、7 月 5 日提出) 解答

担当 吉森 明

[問題 1.] 異核 2 原子分子 1 個の分配関数が  $Z_1 = Z_G j_{rot} Z_S$  の時、1 分子あたりの比熱が  $C_V = C_{V,G} + C_{V,rot} + C_{V,S}$  と 3 つの比熱の和になることを示しなさい。特に分子の慣性モーメントを  $I$  とすると、 $C_{V,rot}$  について低温の極限で温度  $T$  の依存性を表す式を求めなさい。添字の  $G, rot, S$  は重心、回転、スピンを表す。また、 $x \ll 1$  で  $\ln(1+x) \simeq x$  を使え。

[解答] (実際の解答にはここまで計算を丁寧に書かなくて良い。)

エネルギーと分配関数は次の関係式で結ばれる (統計力学 I 参照: 長岡\*1P74(3.17) 式、補習ノート\*2P10(21) 式)。

$$E = -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln Z_1 \quad (1)$$

ここで、 $\beta = 1/(k_B T)$  とした。 $Z_1 = Z_G j_{rot} Z_S$  だから

$$E = -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln(Z_G j_{rot} Z_S) \quad (2)$$

対数の公式から、

$$= -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln Z_G - \frac{\partial}{\partial \beta} \ln j_{rot} - \frac{\partial}{\partial \beta} \ln Z_S \quad (3)$$

$\epsilon_G \equiv -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln Z_G$ 、 $\epsilon_{rot} \equiv -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln j_{rot}$ 、 $\epsilon_S \equiv -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln Z_S$  とすると、

$$= \epsilon_G + \epsilon_{rot} + \epsilon_S \quad (4)$$

これは、エネルギーが 3 つの自由度の寄与の和で書ける事を表している。

一方、比熱は、(長岡 P57(2.87) 式、補習ノート P9(13) 式)

$$C_v = \left( \frac{\partial E}{\partial T} \right)_V \quad (5)$$

\*1 岩波基礎物理学シリーズ 7 「統計力学」、長岡洋介 著、岩波書店

\*2 <http://www.cmt.phys.kyushu-u.ac.jp/~A.Yoshimori/hoshu10.pdf>

(4) 式を代入すると、

$$= \frac{\partial \epsilon_G}{\partial T} + \frac{\partial \epsilon_{rot}}{\partial T} + \frac{\partial \epsilon_S}{\partial T} \quad (6)$$

$C_{VG} = \partial \epsilon_G / \partial T$ 、 $C_{Vrot} = \partial \epsilon_{rot} / \partial T$ 、 $C_{VS} = \partial \epsilon_S / \partial T$  とすれば、答えが示せる。

回転の分配関数は、授業で説明した通り、 $\Theta = \hbar^2 / (2Ik_B)$  とすると、

$$j_{rot}(T) = \sum_{l=0}^{\infty} (2l+1) \exp[-l(l+1) \frac{\Theta}{T}] \quad (7)$$

ここで、 $T \ll \Theta$  を考えると、 $l$  の大きい項は無視できる (問題 2 参照)。

$l > 1$  を無視すると、

$$j_{rot}(T) = 1 + 3 \exp[-2 \frac{\Theta}{T}] \quad (8)$$

(1) 式から、

$$\epsilon_{rot} = -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln j(T) \quad (9)$$

$$= -\frac{\partial}{\partial \beta} \ln \left( 1 + 3 \exp[-2 \frac{\Theta}{T}] \right) \quad (10)$$

$x \ll 1$  の時の公式  $\ln(1+x) = x + \dots$  から、

$$= -\frac{\partial}{\partial \beta} \left( 3 \exp[-2 \frac{\Theta}{T}] + \dots \right) \quad (11)$$

$$= -\frac{\partial}{\partial \beta} (3 \exp[-2\beta k_B \Theta] + \dots) \quad (12)$$

$$= 6k_B \Theta \exp[-2\beta k_B \Theta] + \dots \quad (13)$$

(5) 式から、

$$C_{V,rot} = \frac{\partial \epsilon_{rot}}{\partial T} \quad (14)$$

$$= \frac{\partial}{\partial T} (6k_B\Theta \exp[-2\beta k_B\Theta] + \dots) \quad (15)$$

$$= \frac{\partial}{\partial T} \left( 6k_B\Theta \exp\left[-2\frac{\Theta}{T}\right] + \dots \right) \quad (16)$$

$$= 6k_B\Theta \frac{2\Theta}{T^2} e^{-2\Theta/T} + \dots \quad (17)$$

[問題 2.] 異核 2 原子分子の  $j_{rot}$  について、温度が低ければ大きい  $l$  は無視できることを示せ。

[解答] (7) 式で  $T \ll \Theta$  を考える。

$$\frac{\Theta}{T} \gg 1 \text{ だから、} X \equiv \exp\left[-\frac{\Theta}{T}\right] \text{ は、小さい。つまり、} X \ll 1 \quad (18)$$

$$\exp\left[-l(l+1)\frac{\Theta}{T}\right] = X^{l(l+1)} \text{ で、今、} X \ll 1 \text{ だから、} \quad (19)$$

$$X^{l(l+1)} \text{ は、} \boxed{l \text{ が大きいほど小さい。}} \quad (20)$$

つまり、 $T \ll \Theta$  の時は、 $l$  の大きい項は無視できる。